

VanArsdel, *Ltd.*

ひとり親家庭の貧困 についての研究計画

6年C組 6番 草野萌実



I.論文の「問い」と「結論（Yes/No）」

Q.ひとり親家庭の貧困は地域コミュニティがあれば解決できるのか。

現時点では、YES！

VanArsdel, *Ltd.*

はじめに： クエスチョンについての 問題意識

☆なぜ、この問いを設定したのか
進路でひとり親家庭の貧困問題に
目を向けているため



次に：ひとり親家庭の貧困に興味を持ったきっかけ

幼稚園の時にカンボジアの子どもジョン君とセツパちゃんに募金していた。

高2の冬休みに介護施設でボランティア活動
→支援・コミュニティの在り方に触れた

支援を受ける人も支援を届ける人も幸せに暮らせる環境をつくりたい！

公的支援に目を向けたことから、貧困に興味を持ち、子ども・親からなるひとり親家庭の貧困に興味を持った。

【ひとり親世帯数 (H27厚労省より)】

25年間で、母子世帯は1.5倍、父子世帯は1.3倍

母子世帯 84.9万世帯
父子世帯 17.3万世帯



123.8万世帯
22.3万世帯

50.8%

VanArsdel, *Ltd.*

II. 結論を主張するための根拠A

地域コミュニティの活躍



II. 結論を主張するための根拠B

地域コミュニティが貧困を改善する
役割を担っている証拠
(地域コミュニティの役割を知る)

VanArsdel, Ltd.

II. 結論を主張するための根拠C

ひとり親家庭が増加した背景
貧困増加の原因の把握



Ⅲ. 根拠A・Bが成立するために必要なデータ

- ・文献比較
- ・インターネット


どのような調査を行うのか

- ・ひとり親家庭向けに支援を提供している団体を取り上げる
（例）認定NPO法人
PIECES
NPO法人リトルワンズ

- ・その団体がしていること
- ・内容 支援の種類 方法
- ・利用者のニーズ

Ⅲ. 根拠Cが成立するために必要なデータ

- ・ひとり親家庭の増加メカニズム
- ・貧困率アップの要因
- ・ふたり親世帯とひとり親世帯 抱える問題が異なるのか
- ・貧困・ひとり親家庭の実態



・文献
・サイト

Ⅲ. 研究の押しポイント

オリジナリティ×

調べることで進路につながる

地域コミュニティをつくるよりも支援を提供する側の
人材になるべきかも？

→地域コミュニティを調べていく中で考え方が変わった

IV. 今後の研究計画

① 本や論文を探す



② コミュニティの有用性
貧困問題の分析

① 取り上げた団体についてよく調べる



② 団体ごとの取り組み
工夫の比較

→ 執筆作業へ

VanArsdel, *Ltd.*

ありがとうございました

おわり